

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい
環境が整っているまち

施策分野⑩ 公共交通環境

[将来像] だれもが使いやすい公共交通環境が整っている

基本施策 36 公共交通の環境整備

基本施策がめざす姿

- 通勤や通学、また観光などで葉山を訪れる人など、だれもが使いやすい公共交通環境が整っています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
公共交通の利便性に不満をもっている町民の割合	30.2%	0%	町民アンケート

現状と課題

- 町には、鉄道がなく、JR逗子駅、衣笠駅、京浜急行逗子・葉山駅、汐入駅と町内を結ぶ路線バスが重要な交通手段となっています。多くの路線が1時間に2～6本程度運行しており便利ですが、道路渋滞による遅延の緩和やバス停から離れた地域の利用環境の向上が課題となっています。
- 路線バスの利用が不便な地域や、高低差があり高齢者のバス停までの移動が困難な地域の町民からの要請等により、事業者に対し、路線バスの新規路線の開設や運行本数の増便などの要望を行っていますが、運転員の不足や経営上の採算面などから、実現は大変難しい状況です。
- 今後、主要な公共交通である路線バスと新たな交通手段を組み合わせた町の交通計画の策定に向けて、関係者との協議の場を設けることが求められます。

基本方針

- 周辺自治体、事業者との連携、協力により、公共交通の利便性の向上に努めます。

具体的な取り組み

単位施策	36 - 01	バス路線の充実
------	---------	---------

運行本数の維持を原則とし、ニーズを踏まえながら状況に応じて、バスの新たな運行路線や増便を事業者に対して引き続き要望していきます。また、JR逗子駅や京浜急行逗子・葉山駅周辺のバスの円滑な運行に向け、近隣自治体、事業者と連携し、方策を研究していきます。

単位施策	36 - 02	バスの利用環境の向上
------	---------	------------

主要なバス停へのベンチ、屋根の設置等、利用環境の向上に向けた取り組みを関係機関とともに進めます。併せて、バスベイの整備についても、機会を捉えて関係機関へ要望します。

単位施策	36 - 03	交通計画策定に向けた取り組み
------	---------	----------------

バス停から離れた地域などの地域交通の利便性を向上させる手段として、新たな交通手段の検討、導入を図るために交通事業者や関係機関との協議の場を設置し、交通計画の策定に向けた検討を進めます。

協働でできること

- 町は、渋滞緩和、温室効果ガス排出削減や地域交通の利便性を向上させる手段として、新たな公共交通機関の導入について、地域住民と検討します。



町内のバス停